

2026年5月10日(日)第1礼拝「与える祝福」ルカ6章38節

信仰生活の生命力は与えることです。イスラエルのヘルモン山から流れた水はヨルダン川となり、それはガリラヤ湖に流れていきます。そこは魚が多く生息し、いのちで溢れています。更に水は死海に流れますが、死海は受けるだけで与えないので、その名の通り死の海です。私たちの信仰生活も同様で、神様から頂いたものを分け与えるなら生命力で溢れます。

第一番目、与えなさい。神様は無条件の愛を私たちに与えてくださいます。神様は私たちに必要なものすべて、空気も、太陽も、土も、水も与えられ、また御子イエス・キリストを通して罪の赦し、永遠のいのち、天国を与えてくださいました。その神様から受けた祝福をもって私たちも神様が造られた自然、人、ものを祝福する者となりましょう。「主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。」(民数記6:24~26) 特に苦難の中にある人、病の人、貧しい人を助け、祝福することは、神様を愛し、祝福することです。「最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです」(マタイ25:40)

第二番目、自分も与えられます。自分にしてほしいことを他の人にするなら、神様は大きな御手で祝福してくださいます。ハーバード大学の研究チームは、千八百人の患者と、とりなし祈る人たちの脳波を研究し、他の人のために祈る人の体から塩素が減少するという研究結果が出ました。また、異言の祈りをする人の脳波を研究したところ、彼らの前頭葉は止まり、恐れや心配は消え、自分で判断して動こうとするのを止めたという結果が出て、自分ではない他の存在と自分が繋がっているのを感じたと報告しました。つまり、隣人の癒しを祈るなら、自分が癒されるのです。十四年前、私たちが支援をさせていただいたフィリピン宣教師のヤンソンハン先生により、この度、癒しの聖会が行われました。イエス様への信仰告白と祈りと鍼灸治療を通して多くの癒しが起こりました。確かに、与えるなら自分も与えられるのです。世界は黙示録にある通り、白い馬が人を騙し、赤い馬が戦争を起こし、黒い馬が経済危機を起こし、青ざめた馬が死をもたらしていますが、この時代にあっても人を愛し、最も小さい者を助け、癒し、祝福するなら、神様も私たちを守り、祝福してくださいます。

第三番目、量りをよくして与えられます。「...人々が量りをよくして、押し付け、揺すり入れ、あふれるまでにして、ふところに入れてくれるでしょう...」(本文38節) 蒔いたら蒔いたものが、量ったら量ったものが返ってきます。これは自然界の法則でもあり、霊的原則でもあります。肉(自分)のために蒔くなら死を刈り取りますが、御霊のために蒔くなら永遠のいのちを刈り取ります。多く蒔いたら多く刈り取り、少し蒔いたら少しだけ刈り取ります。また、種を蒔くのに時があるように、すべてには時があります。「善を行うのに飽いてはいけません。失望せずにいれば、時期が来て、刈り取ることとなります。」(ガラテヤ6:9) 私たちはすべての人を祝福し、特に神の家族のために癒しや施しを行いましょう。それは、施しを受けた人がイエス様を信じて、永遠のいのちを受けるためです。